ほくでんサービス

電気温水器

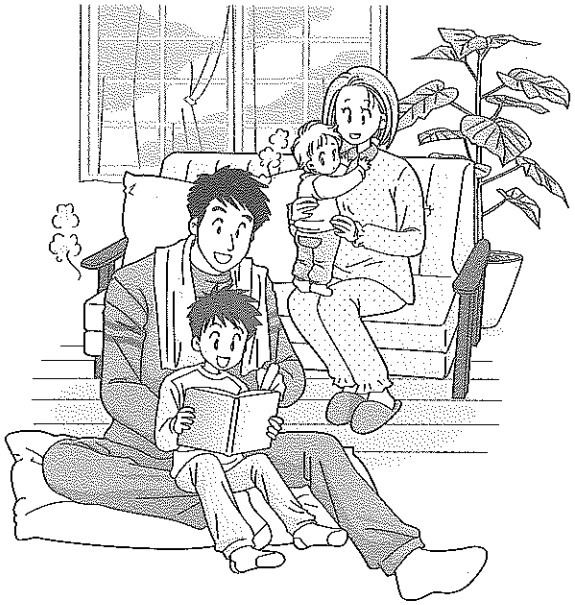
深夜電力(8時間)

形名

HE-3710(タンク容量:370L)

(形名の表示位置は6ページをご覧ください。)

取扱説明書



この温水器の設置の際は、据付工事店(販売店)に依頼するか、お客さまご自身で、最寄りの電力会社へ設置した温水器の形名の届け出を行ってください。(買い替え時などで機種変更した場合でも、電力会社への届け出が必要です。)

- 正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みください。そのあと大切に保管し、必要なときお読みください。
- 保証書、据付工事説明書(チェックリストが入っています。)は、必ず所定の記載事項を確かめて、据付工事店(販売店)からお受け取りください。
- 必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。自家浄水システム等をご使用の場合は、水質によっては故障の原因になります。
- お客さまご自身では据付けないでください。安全や機能の確保ができません。
- 試運転は、据付工事店立ち合いのもとで行なってください。その際、安全を確保するための正しい使い方について、据付工事店から説明を受けてください。
- この温水器を他に売ったり譲渡されるときなどには、次の所有者となる方が安全な正しい使用方法を知るために、この取扱説明書と据付工事説明書、保証書などを次の所有者の方へ渡してください。
- この商品は日本国内専用で、日本国外では使用できません。
  また、アフターサービスもできません。

  This appliance is designed for domestic use in Japan only and cannot be used in any other country.
  No servicing is available outside of Japan.

この取扱説明書は再生紙を使用しました。

もくじ

ページ

ご使用の前に

特長 …… 2
安全のために必ずお守りください …… 3
ご使用にあたってのお願い …… 5
各部のなまえ …… 6
準備 …… 7

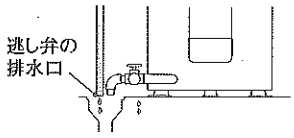
こんなとき

長期間 使用しないとき …… 8
凍結防止をする …… 9
断水したとき …… 10
給湯を止めるとき …… 10
定期点検(有料) …… 10
日常のお手入れと点検 …… 11
故障かな? …… 12
アフターサービス …… 14
仕様 …… 裏表紙

よくあるご質問（製品の故障ではありません。）

Q 逃し弁の排水口からお湯（水）や湯気が出ている

A わき上げ中は、水がお湯になるときに体積が増える分のお湯が少しずつ排水されます。
正常動作です。
ただし、わき上げ中ランプが点灯していない場合は、弁類の故障が考えられます。



Q お湯を使っていたら、水が出てきた

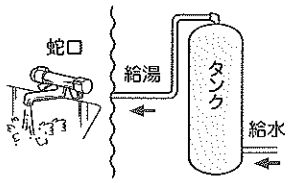
A 湯切れです。
この温水器は、電気代の安い夜間時間帯にお湯をわかしてタンクにためておき、昼間に使います。
このため、1日に使用できるお湯の量は限りがあります。
シャワーや洗いものをするときは、流しっぱなしで使用せず、こまめに止めてください。

Q 電源を「入」にしても、お湯が出ない

A 温水器設置直後の使い始めなど、タンク内が水の状態で電源を「入」にしても、すぐにお湯は使用できません。
タンク全体がわき上がるまで約8時間かかります。

Q お湯を使用すると、タンク内は空になるのでは

A 温水器は「自動給水・押上げ方式」です。蛇口をひねると、タンク内のお湯は給水水圧によって押上げられ、タンク上部の給湯口より給湯配管を通って自動的に採湯することができます。使用したお湯の分だけの水が、温水器下部の給水口より水道水圧を利用して自動的にタンクに供給されますので、タンク内は常にお湯（水）で満たされています。

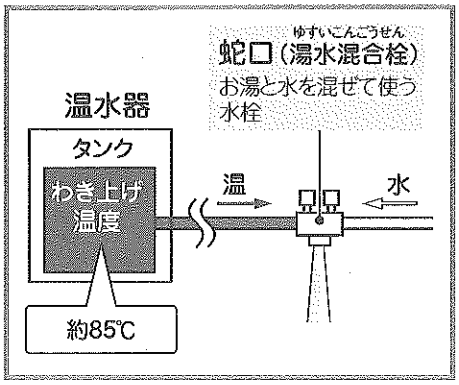


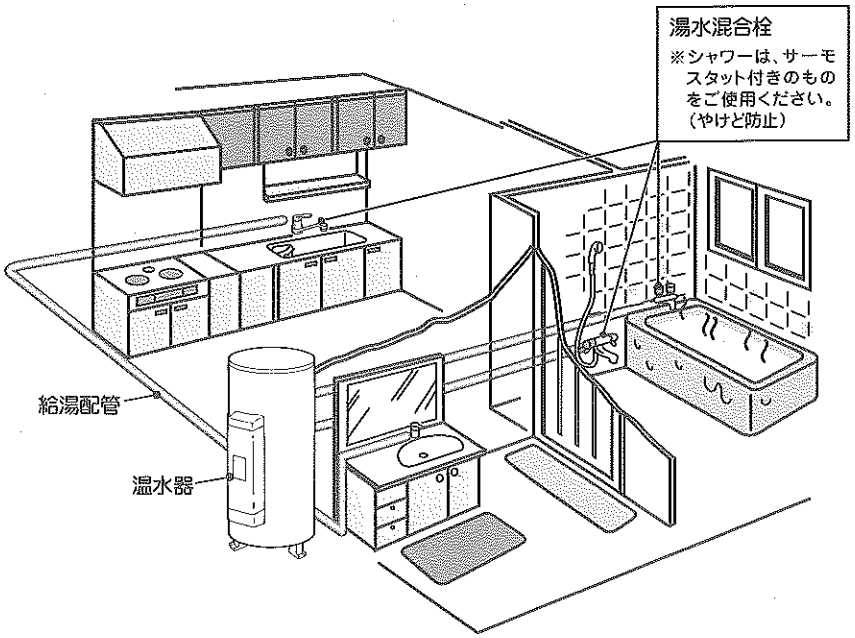
※「Q」は質問を「A」は質問に対する答えを表します。

特長

温水器のしくみ

温水器でわき上げたお湯は、配管を通って家の中の蛇口（台所、洗面所、シャワーなど）にきます。水と混ぜて（湯水混合栓で混ぜる）お好みの温度で使用してください。





お知らせ

- 蛇口から出るお湯は、配管部分の放熱によってタンクのわき上げ温度より低くなることがあります。

安全のために必ずお守りください

●ご使用の前にこの欄を必ずお読みになり、正しく安全にお使いください。
●お読みになった後は、据付工事説明書とともにお使いになる方がいつでも見られる所に保管してください。
据付工事説明書も必ず据付工事店(販売店)から受け取ってください。

■誤った取扱いをした場合に生じる危険とその程度を、次の区分で説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性があります。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつきます。

■本文中に使われる図記号の意味は次のとおりです。

禁止		アース線接続	
分解禁止		指示にしたがう	
接触禁止			

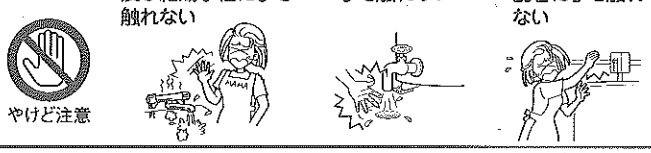
(本体の表示)

	感電注意
	高温注意
	発火注意

⚠警告

やけどに注意

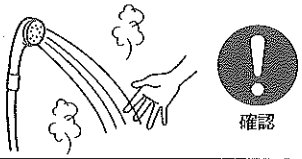
- 給湯時は湯水混合栓及び給湯水栓に手を触れない
- 排水時はお湯に手を触れない
- 逃し弁点検時は配管に手を触れない



使いはじめはやけどに注意する

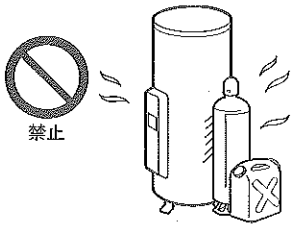
特に朝の使いはじめは、空気の混ざった熱湯が飛び散る場合があります。

入浴するときやシャワー使用時、台所や洗面所でお湯を使うときは、温度を指先等で確認する



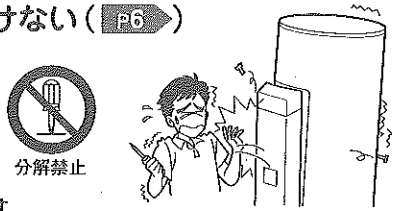
温度を確認しないと、やけどをすることがあります。

近くにガス類や引火物を置かない



発火・火災になることがあります。
(ガスボンベからは2m以上離してください。)

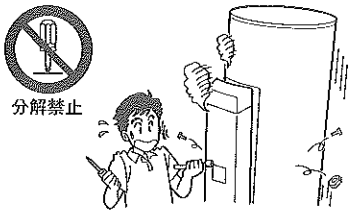
前面カバーを開けない(P6)



開けると、感電することがあります。

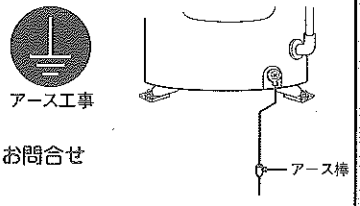
改造をしない

(修理技術者以外の人は分解・修理をしない)



発火したり、異常動作してけがをすることがあります。

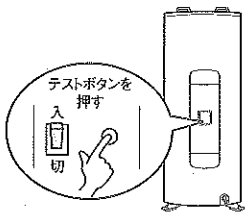
アース工事を確認する



工事に不備があると、故障や漏電のときに感電することがあります。

アースの取付けは、据付工事店へお問合せください。

漏電遮断器の動作を確認する(P11)



故障のまま使用すると、感電することがあります。

異常(こげ臭いなど)時は、漏電遮断器の電源レバー(P6)を下げて電源を「切」にし、お買い上げの据付工事店(販売店)または「ほくでんサービス お客様相談窓口(別紙)」へ連絡する

異常のまま使用すると故障や感電、火災の原因になります。

安全のために必ずお守りください（つづき）

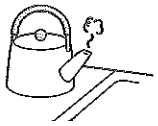
⚠注意

そのまま飲用しない

禁止

長期間のご使用によってタンク内に水アカがたまったり、配管材料の劣化などによって水質が変わることがあります。飲用される場合は、下記の点に注意し、必ず一度ヤカンなどで沸騰させてからにしてください。

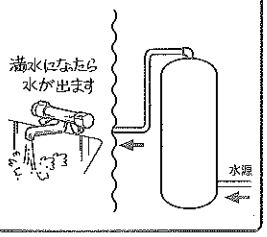
- 必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。
- 熱いお湯が出てくるまでの水（配管にたまっている水）は、雑用水としてお使いください。
- 固形物や変色、濁り、異臭があった場合には、飲用せずに直ちに、据付工事店（販売店）へ点検を依頼してください。



電源を入れるときは、本書の手順通りに行う（P7）

満水確認

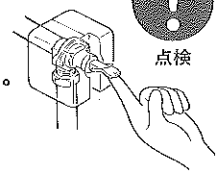
機器に水がない状態で電源を入れたままにすると、故障の原因になります。



逃し弁の点検をする（P11）

点検

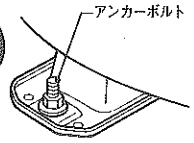
点検しないとタンクや配管が破損したり、逃し弁から水漏れしたりすることがあります。また、水漏れにより電気代、水道代が高くなったり、家屋などへの不具合が発生することがあります。



脚（3カ所）がアンカーボルトで固定されているか確認する

確認

固定されていないと、地震のとき、機器が倒れてけがをすることがあります。



上部振れ止め金具が壁に固定されているか確認する

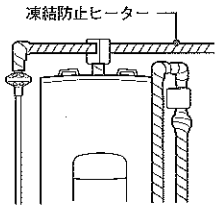
確認

固定されていないと、地震のとき、本体が倒れてけがをすることがあります。

凍結防止対策の確認をする（P9）

確認

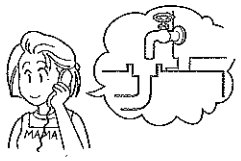
凍結するとタンクや配管が破裂しやけどや水漏れをすることがあります。



床面が防水・排水処理されているか据付工事店へ確認する

確認

処理されていない場合、水漏れが起きたとき大きな損害につながることがあります。



タンクの熱湯を直接排水しない（P8）

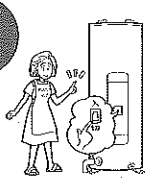
禁止

やけどをすることがあります。また、排水管などを破損することがありますのでタンク内を水にしてから排水してください。

温水器を長期間使用しない場合など漏電遮断器の電源レバーを「切」にするときは、機器と配管内の水を確実に抜く（P8）

抜く

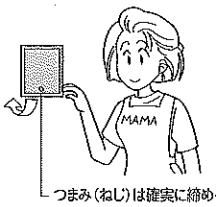
配管が凍結し、水漏れすることがあります。
また、水質の変化により、健康へ影響することがあります。



操作カバーは閉じる（P6）

閉じる

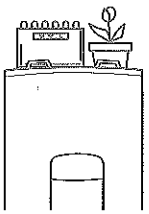
開けておくと雨水やゴミが入り、漏電や感電することがあります。



機器に乗ったり、物を乗せたり、配管に力を加えたりしない

禁止

事故・やけどの原因になります。



ご使用にあたってのお願い

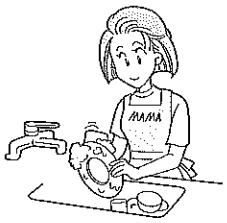
使用にあたっては、以下のことをお守りください。

お湯を上手に使う

1日に使用できるお湯の量は限りがあります。

- **シャワーは止めながら**
  （髪を洗っているときは止めましょう。）

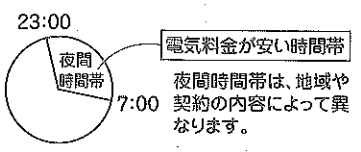
- **洗いものをするときも止めながら**



流しっぱなしで使用せず、こまめに止めましょう。

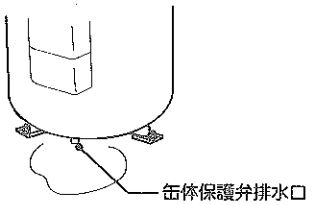
夜間時間帯のご使用について

この温水器は、夜間時間帯にお湯をわかしますので、**夜間時間帯にお湯を使うと、翌日のお湯の温度が低くなったり、お湯がたりなくなったりする場合があります。**



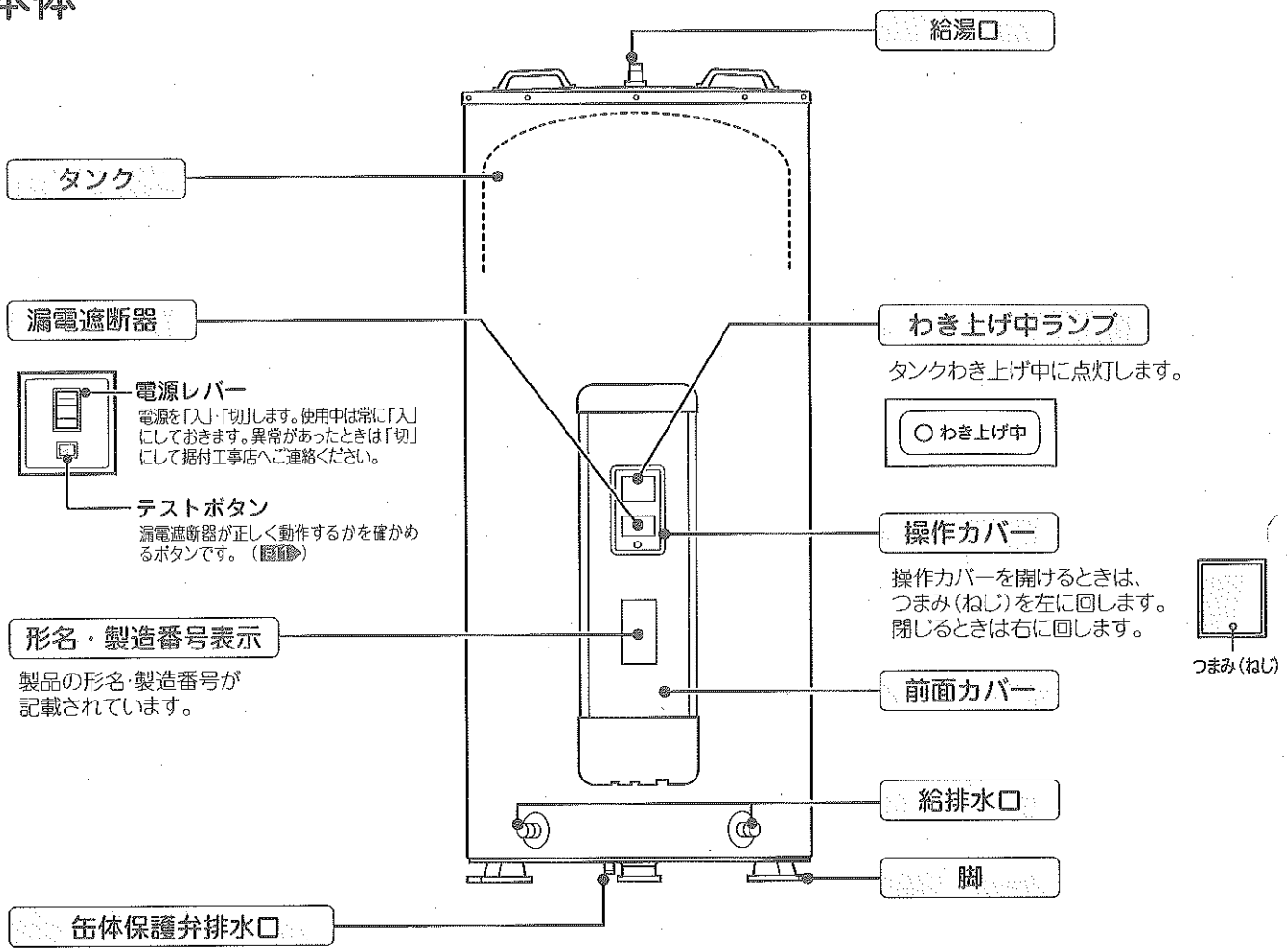
万一の故障時には

本体や缶体保護弁排水口から水が排出された場合は、温水器専用止水栓を閉じ、電源ブレーカーまたは漏電遮断器の電源レバー（P8）を「切」にして据付工事店（販売店）へご連絡ください。

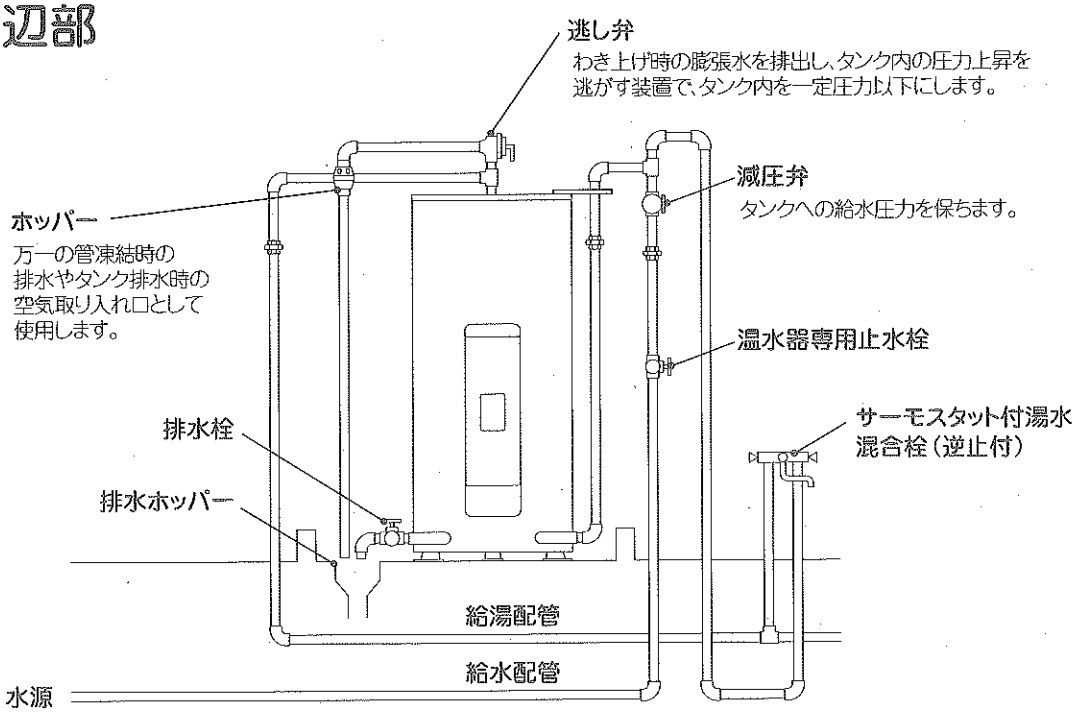


各部のなまえ

本体



本体周辺部



準備

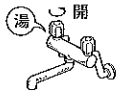
使い始めは、次の手順で操作します。また、タンクの水抜きをせずに1カ月以上温水器を使用しなかった場合は、いったんタンクの水抜きをして（P8）から次の手順を行なってください。

※必ず、手順通りに行なってください。わき上げできない場合があります。
方法がわからない場合は、据付工事を行なった販売店・工事店、または、当社ご相談窓口（別紙）へご相談ください。

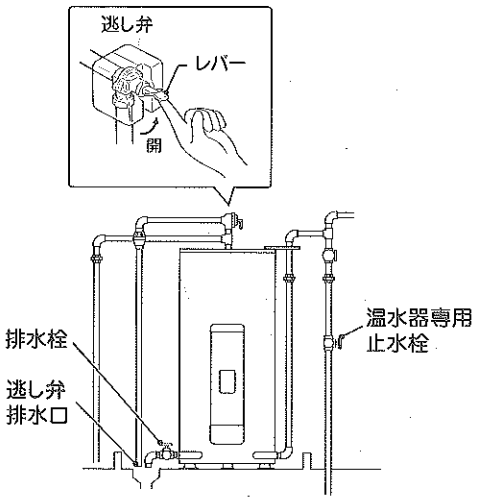
1.温水器のタンクを満水にする

①蛇口（湯水混合栓）、排水栓が閉じていることを確認する
②タンク内の空気を抜くために、逃し弁を開く
③温水器専用止水栓を開いてタンクに水を入れる
タンクが満水になると逃し弁排水口から水がでます。満水までの目安は約30分です。
（配管や水源水圧によって多少異なります。）
④満水になったら、逃し弁を閉じる
温水器専用止水栓は、閉じないでください。
⑤給湯配管の空気を抜くために、蛇口（湯水混合栓）のお湯側を開く（1カ所）

操作の方法は湯水混合栓のタイプによって異なります。

2バルブタイプ	シングルレバータイプ	サーモスタットタイプ
お湯側（給湯つまみ）を開く	お湯側にレバーを回して上げる（下げる）	湯温調節つまみを「高」側にして給湯つまみを開く
		

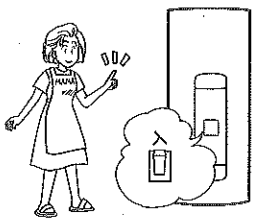
空気が抜け、蛇口から水が出たら蛇口を閉じてください。



2.電源を入れる

①200V電源ブレーカーを「入」にする
（または分電盤の電源ブレーカーを「入」にする）

②漏電遮断器の電源レバーを「入」にする（P6）



⚠注意
通電はタンクを満水にしてから行う

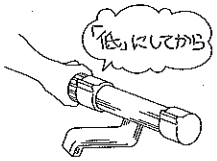
温水器のわき上げ

夜間時間帯（P5）にお湯をわき上げます。
わき上げ中は、本体の「わき上げ中ランプ」が点灯します。

夜間時間帯は、地域によって異なります。

3.お湯を使う

お湯は翌朝から使用できます。
やけど防止のため、湯水混合栓の湯温調節つまみを「低」側にしてから給湯つまみを開き、適温に調整してお湯を使用します。



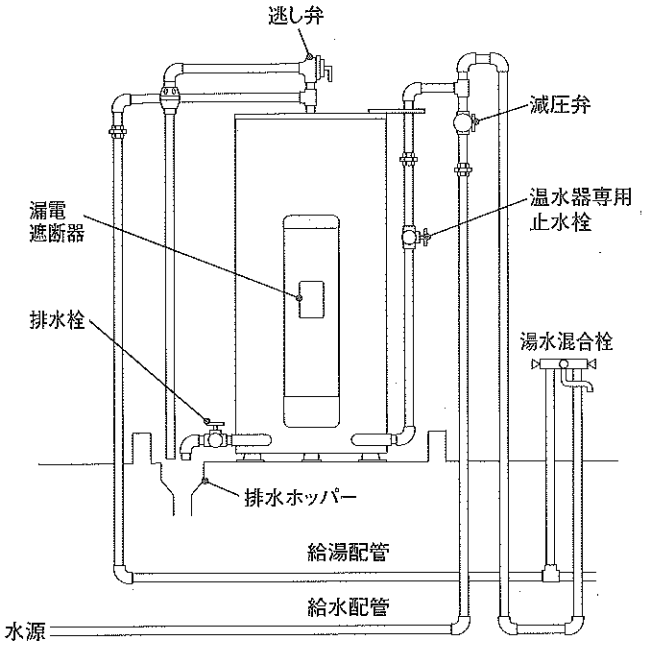
⚠警告
使いはじめは、やけどに注意する
特に朝の使いはじめは、空気の混ざった熱湯が飛び散る場合があります。

長期間 使用しないとき

長期間（1カ月以上）使用しないときは、運転を止めタンクの水を抜きます。

⚠注意

- 長期間（1カ月以上）使用しないときは、タンクの水を抜く（水質変化による健康への影響）
- タンクの熱湯を直接排水しない（やけど、排水管などの破損の原因）



1 電源ブレーカーまたは漏電遮断器の電源レバーを「切」にする

電気の供給を停止します。（あらかじめ前日に「切」にしておけば、ムダにお湯を捨てることがなくなります。）

2 タンク内のお湯を水にするために、湯水混合栓（例えば台所など）を開き、熱いお湯が出なくなるまでお湯を出す

（熱いお湯が出なくなったら、湯水混合栓を閉じてください。）

お願い ● お湯の温度を調節して60℃以下で排水してください。

3 温水器専用止水栓を閉じる

温水器（タンク）への給水を止めます。

4 逃し弁のレバーを上げる〈右図〉

タンクへ空気を取り入れます。

5 排水栓を開く

タンクの水（お湯）を抜きます。

排水ホッパーから排水があふれないように排水栓を調整してください。水が抜けるまでに約40分～50分かかります。

⚠警告

排水時は、やけどに注意する

6 排水完了後、1時間程度経過してから、排水栓を閉じる

お願い ● 排水直後に逃し弁を閉じないでください。タンクが負圧になり破損する原因となります。（逃し弁は再び使用するときまで閉じないでください。）

再び使用するとき

逃し弁のレバーを閉じて、排水栓が閉じていることを確認してから、準備（P7）の手順を行なってください。

凍結防止をする

寒い季節になったら、凍結防止処置（凍結防止ヒーターのプラグを入れる）が行われているか、必ず確認してください。各配管に保温工事がしてあっても、冬期は本体周囲温度が0℃以下になると配管が凍結し、機器や配管が破損することがあります。（寒冷地だけでなく暖かい地域でも凍結することがあります。）
凍結防止対策として「凍結防止ヒーターによる方法」「少量の水を流し続ける方法」「水抜きによる方法」などがあります。どの方法で施工されたのか据付工事店へ確認してください。また、お客さまが行う具体的な操作方法についても確認し、凍結防止の操作を行なってください。

⚠注意

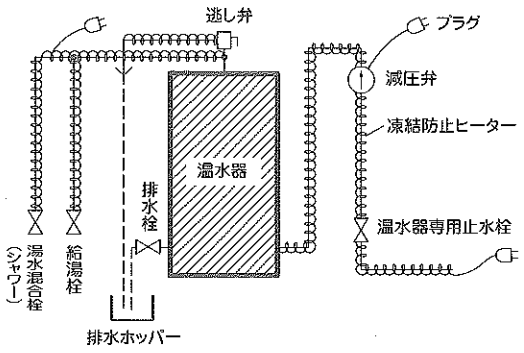
- 凍結防止対策の確認をする
  凍結するとタンクや配管が破裂し、やけどや水漏れをすることがあります。

お願い

- 配管が凍結した場合は、温水器専用止水栓を閉じて据付工事店（販売店）へご連絡ください。

● 凍結防止ヒーター（市販品）による方法

凍結防止ヒーターが図のように巻かれているか確認します。使用するときは、すべてのプラグをコンセントに差し込みます。凍結しない季節はコンセントからプラグを抜いておきます。

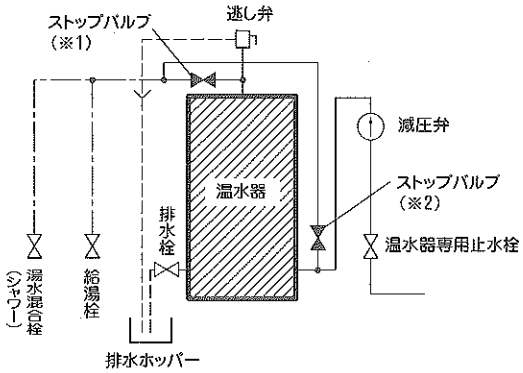


● 少量の水を流し続ける方法

（凍結防止の間、お湯は使用できません。）

〈夜 お湯を使わなくなったら〉
①ストップバルブ（※1）を閉じ、ストップバルブ（※2）を開く
②各給湯栓、湯水混合栓を少し開けて、糸引き状態に水を流す

〈翌朝使用するとき〉
①各給湯栓、湯水混合栓を閉じる
②ストップバルブ（※2）を閉じ、ストップバルブ（※1）を開く

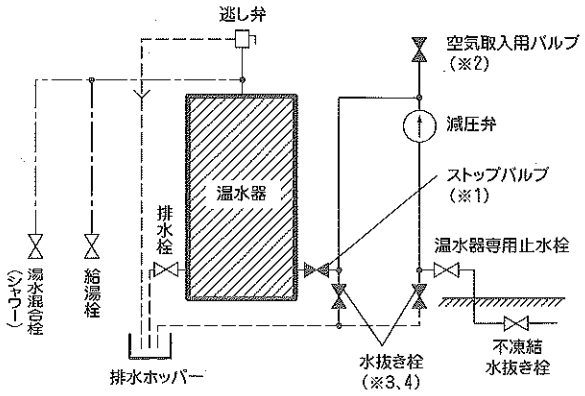


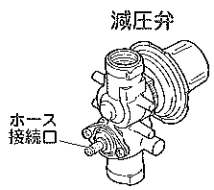
● 水抜きによる方法

（凍結防止の間、お湯は使用できません。）

〈夜 お湯を使わなくなったら〉
①温水器専用止水栓と不凍結水抜き栓を閉じる
②ストップバルブ（※1）を閉じ、空気取入用バルブ（※2）を開き水抜き栓（※3、4）を開く
③減圧弁のホース接続口を押す〈図〉
（詳しくは減圧弁の説明書をご覧ください。）
④逃し弁のレバーを上げ、湯水混合栓、給湯栓を開く
⑤排水栓を開き、15～20L程度（約2分間）排水する
（排水が終わったら排水栓を閉じてください。）

〈翌朝使用するとき〉
①逃し弁のレバーを下げる
②減圧弁のホース接続口を引き出す
③空気取入用バルブ（※2）と水抜き栓（※3、4）を閉じる
④不凍結水抜き栓、温水器専用止水栓とを開きストップバルブ（※1）を開く
⑤湯水混合栓、給湯栓を閉じる





断水したとき

断水したときや近くで水道工事が行われるときは、温水器専用止水栓（P6）を閉じてください。
（閉じると温水器からのお湯が止まります。）
閉じないでそのまま使用すると、濁った水で減圧弁のストレーナー部が目詰まりし、出湯量が減少したり、お湯が濁る原因になります。工事が終了したら、蛇口の水側を開き、水の汚れがなくなったのを確認してから、温水器専用止水栓を開いて使用を再開してください。

給湯を止めるとき

湯水混合栓のパッキンの交換などで、温水器からの給湯を止めるときは、温水器専用止水栓（P6）を閉じてください。

お願い ● パッキン交換などの作業を行う場合、一度、蛇口を開き、お湯が出なくなったことを確認してから作業を行なってください。

定期点検（有料）

温水器を少しでも長くお使いいただくために、**3～4年に1度定期点検（有料）を行なってください。**
定期点検については、据付工事店（販売店）または「ほくでんサービス お客様相談窓口」（別紙）へご相談ください。点検の結果、部品交換が必要なものは、有料で交換します。

● 定期点検の主な内容

項　目	内　　容
据付状態	設置面、配管状態、配管その他の保温処置、電気配線などの確認
機能部品	電気部品（配線、導通、動作の確認）、弁類（減圧弁、逃し弁）などの点検および消耗部品の交換
清　　掃	タンク内の清掃（沈殿物の除去など）

● 消耗部品

以下の部品は消耗部品です。

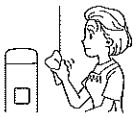
減圧弁　逃し弁　ヒーター　パッキン類　センサー類

お願い ● 上記部品の交換時は、当社別売指定部品をご指定ください。

日常のお手入れと点検

日常のお手入れ

本体の表面が汚れたときは、乾いた布や固くしぼった布で拭いてください。



お願い ● ベンジンやシンナーなどの化学薬品やアルコールは、使用しないでください。変形や変色の原因になります。

1年に2〜3回程度のお手入れと点検

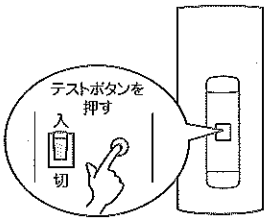
■漏電遮断器の動作点検

漏電遮断器の点検は、200V電源供給中（夜間時間帯）に行なってください。

①テストボタンを押す
電源レバーが「入」→「切」になれば正常です。
「切」にならない場合は、据付工事店にご連絡ください。

②必ず電源レバーを「入」に戻す

⚠警告
漏電遮断器の動作を確認する（感電の原因）

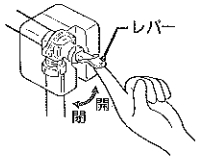


■逃し弁の点検

動作点検と水漏れ点検を行います。

〈動作点検〉
レバーを上げ、水（お湯）が排水ホッパーへ出ることを確認する
水（お湯）が出れば正常です。
水（お湯）が出ない場合は、温水器専用止水栓を閉じ、電源ブレーカーまたは漏電遮断器の電源レバーを「切」にして据付工事店へご連絡ください。また、レバーの動きが悪い場合は、早めに据付工事店へご連絡ください。**動作確認後は必ずレバーを下げてください。**

〈水漏れ点検〉
わき上げをしていないとき（本体の「わき上げ中ランプ」が点灯していないとき）、排水ホッパーから水（お湯）が出ていないかを確認する
水（お湯）が出ていなければ正常です。
水（お湯）が出ている場合は、レバーを数回、上下に動かします。それでも、水が止まらない場合は、温水器専用止水栓を閉じ、電源ブレーカーまたは漏電遮断器の電源レバーを「切」にして据付工事店へご連絡ください。



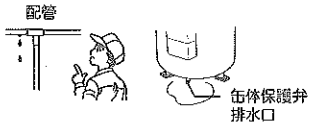
⚠警告
点検時は、配管に手を触れない（やけどの原因）

⚠注意
逃し弁の点検をする
点検をしないと、タンクや配管が破裂し、やけどの原因になります。

■配管、缶体保護弁排水口からの漏水点検

配管の保温材破損や配管からの水漏れと、缶体保護弁排水口から水が排出されていないかを点検します。水漏れが生じている場合は、据付工事店にご連絡ください。特に冬期に入る前には、必ず配管の保温材のチェックを行います。破損している場合、配管が凍結し、本体や配管が破損することがあります。

お願い ● 本体や周辺配管などから水漏れが生じた場合は、温水器専用止水栓を閉じ、電源ブレーカーまたは漏電遮断器の電源レバーを「切」にして据付工事店へご連絡ください。



⚠注意
配管を点検する
マンションなど、中・高層住宅では水漏れが起きた場合、下層階に被害を及ぼすことがあります。

■タンクのお手入れ

①排水栓を約1〜2分間開く
タンクの下部にたまった汚れを排水します。
排水ホッパーから排水があふれないように排水栓を調整してください。

②汚れがなくなったら排水栓を閉じる
汚れが多い場合は、数回繰り返します。

お願い ● タンクのお手入れを行うときは、同時に排水管（溝）のゴミつまりなども点検してください。ゴミなどで排水が流れにくい場合は、水漏れ事故防止のため据付工事店へご連絡ください。（有償）

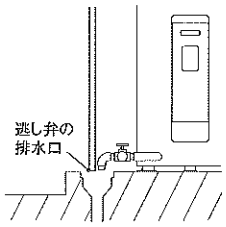
⚠警告
排水時はお湯に手を触れない（やけどの原因）

故障かな？

こんなときは故障ではありません

■逃し弁の排水口からお湯が出ている

本体の「わき上げ中ランプ」が点灯しているときは、水をお湯にわき上げているので、体積が増えた分を逃し弁から排水しています。



■浴槽の水が青く見える

光の波長の関係や浴槽の色などによって浴槽の水が青く見えることがあります。また、配管（銅配管）から溶出したわずかな銅イオンによって浴槽や洗面部材などが青くなることがありますが異常ではありません。

■お湯が白く濁って見える

水中に溶け込んでいた空気が、蛇口を開けたときに細かい泡となって出てくる現象です。少し時間をおくと消えます。

■お湯から油がでる、お湯が臭い

初めて使用するときは、配管工事のときの油や臭いがお湯に混ざって出る場合がありますが、しばらくすると消えます。臭いが気になる場合は、（P8）の手順によりタンク内の湯を入れかえてください。

■お湯を使っていたら、水が出てきた

湯切れです。この温水器は、電気代の安い夜間時間帯にお湯をわかしてタンクにためておき、昼間に使うのが基本です。このため、1日に使用できるお湯の量は限りがあります。（P5）

故障かな？と思ったら

症　状	原　因	処　置
お湯が出ない お湯の出が悪い	温水器専用止水栓が閉じている	閉じていれば開いてください。
	断水している（蛇口から水がでますか？）	断水が終るまで待ってください。
	配管が凍結している	凍結していた場合は、温水器専用止水栓を閉じて据付工事店（販売店）へご連絡ください。
お湯がわかない お湯が足りない	電源ブレーカーが「切」になっている	「切」になっている場合は、「入」にしてください。
	本体の漏電遮断器の電源レバーが「切」になっている	「切」になっている場合は、「入」にしてください。 2度、3度と「切」になる場合は、「切」のまま据付工事店（販売店）へご連絡ください。
	本体の「わき上げ中ランプ」が点灯していないときに、逃し弁の排水口からお湯（水）がでている	逃し弁の点検を行なってください。（詳細） 逃し弁が正常でもお湯が出ている場合は、減圧弁や缶体保護弁の故障、または、逆流防止機能のない湯水混合栓からの回り込みが考えられますので据付工事店（販売店）へご連絡ください。
	本体の「わき上げ中ランプ」が点灯しているときに、お湯をたくさん使用した（特に夜間時間帯）	翌日まで待ってください。
	いつもに比べてお湯をたくさん使用した	翌日まで待ってください。
缶体保護弁排水口から水が出ている	逃し弁、減圧弁または缶体保護弁の故障です。	逃し弁の点検を行なってください。（詳細） 逃し弁が正常でもお湯が出ている場合は、減圧弁や缶体保護弁の故障、または、逆流防止機能のない湯水混合栓からの回り込みが考えられますので据付工事店（販売店）へご連絡ください。
浴槽や洗面器等に青い線がつく	湯垢と銅配管等から溶出した銅イオンが反応して不溶性の青い銅石けんが付着したものです。	台所用の油汚れ専用の洗剤をスポンジにつけてこすれば除去できます。こまめな清掃により湯垢がつかないようにすれば防止できます。

上記にしたがって処置をしても、なお異常がある場合は、お買い上げの据付工事店（販売店）またはお近くの「ほくでんサービスお客様相談窓口」（別紙）へご相談ください。

アフターサービス

■保証書（別添付）

●保証書は、必ず「お買上げ日、据付工事店名（販売店名）」などの記入をお確かめのうえ、据付工事店からお受け取りください。内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。（取扱説明書、据付工事説明書なども保証書と一緒に保管してください。）

●据付工事説明書（別添付）で指定されていない別売品を用いて使用した場合、故障が生じたときには責任を負いかねます。

保証期間…お買上げ日から2年間です。
ただし、タンクは5年間、発熱体（ヒーター）は3年間です。

■補修用性能部品の保有期間

●この製品の補修用性能部品を製造打切り後10年保有しています。

●補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■修理を依頼されるときは

●「故障かな?」（P12）にしたがってお調べください。
なお不具合がある場合は、電源を「切」にしてから、据付工事店（販売店）または、「ほくでんサービス お客様相談窓口」（別紙）へご連絡ください。

●保証期間中は

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定にしたがって据付工事店（販売店）が修理させていただきます。

●保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

●修理料金は

技術料＋部品代（＋出張料）などで構成されています。

●ご連絡いただきたい内容

1．品名　　：電気温水器
2．形名　　：本体正面に表示してあります。
3．お買上げ日：年月日
4．故障の内容：できるだけ具体的に
5．お名前・ご住所（付近の目印なども）・電話番号・訪問希望日

■お問合せ窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

ほくでんサービス株式会社は、お客様からご提供いただきました個人情報は、下記のとおり、お取り扱いします。

1.お問合わせ（ご依頼）いただいた修理・保守・工事および製品のお取り扱いに関連してお客様よりご提供いただいた個人情報は、本目的並びに製品品質・サービス品質の改善・製品情報のお知らせに利用します。
2.上記利用目的のために、お問合わせ（ご依頼）内容の記録を残すことがあります。
3.あらかじめお客様からご了解をいただいている場合および下記の場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を提供・開示する事はありません。
①上記利用目的のために、弊社グループ会社・協力会社などに業務委託する場合。
②法令等の定める規定に基づく場合。
4.個人情報に関するご相談は、お問合せをいただきました窓口にご連絡ください。

仕様

形名		HE-3710
適用電力制度		深夜電力(8時間)
設置場所		屋内
タンク容量		0.37m³(370L)
定格電圧		単相200V
定格消費電力		4.4kW
タンクわき上げ温度		約85℃
標準消費電力量※		約32kWh/日
外形寸法	高さ	1673mm
	外径	φ660
	奥行	731mm
製品質量	本体	約46kg
	満水時	約416kg
最高使用圧力		100kPa
安全装置		漏電遮断器、温度過昇防止器、缶体保護弁

※標準消費電力量は、わき上げ温度85℃、給水温度15℃の条件でタンク内全量を1回わき上げたときの値です。

愛情点検

★長年ご使用の温水器の点検を!

●この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造打切り後10年です。

こんな症状はありませんか	
	●設置場所が漏れている。 ●お湯が早くなくなる。 ●時々漏電遮断器がはたらく。 ●その他の異常や故障がある。

▶

ご使用中止	
	故障や事故防止のため、電源ブレーカー及び本体の漏電遮断器を切り、温水器専用止水栓を閉じてから、据付工事店に点検・修理(有料)をご相談ください。

製品形名〈製造番号〉	据付工事店(販売店)の店名・住所・電話番号
HE-3710 〈　　〉	
お買上げ日	
年　月　日	

点検・修理時の覚え書きとしてご使用ください。

ほくでんサービス株式会社 販売事業部

〒060-0031 札幌市中央区北1条東1丁目6番地　住友商事札幌ビル

電話番号　011-207-6555(代表)